

## 1 調査目的

このアンケートは、「茨城県認知症施策推進計画」の策定にあたり、認知症に対する県民等の意識の現状を把握し、認知症施策の方向性を確認するとともに、今後の効果的な認知症施策の検討および効果を検証する基礎資料として活用することを目的に実施しました。

## 2 結果の概要

- ◆ 約 3 割の人が認知症の人と接した経験がなく、認知症の人と接する機会では、家族・親族や近所づきあい、仕事やボランティア等での関わりであった。
- ◆ 8 割以上の人が認知症に関する基礎知識（症状・原因となる病気）について知っているが、認知症の人に対する接し方や予防・治療については 5 割以下、利用できるサービス、相談窓口について知っている人は 3 割以下であった。
- ◆ 認知症に対するイメージは、9 割の人が「家族の負担が大きい」と認識する一方で、「生活の工夫やサポートによって地域で暮らし続けられる」といった前向きな認識も混在していた。
- ◆ 認知症になった場合の暮らしの意向では、6 割の人が住み慣れた地域での生活を望む一方、「迷惑をかけたくない」などの理由で施設入所を希望する人も 3 割存在した。
- ◆ 地域で暮らす認知症の人にできる支援としては、6 割以上の人が「見守り」や「声かけ」といった日常的な関わりを挙げた一方で、「ゴミ出し」「買い物代行」等の生活支援は 3 割、「外出支援」や「地域活動と一緒に参加する」等の社会参加への支援は 2 割と限定的であった。
- ◆ 県の認知症施策の認知度は「知らない」とする回答が 3 割に上った。今後も引き続き、市町村及び関係機関と連携し、わかりやすい情報発信の強化が必要である。

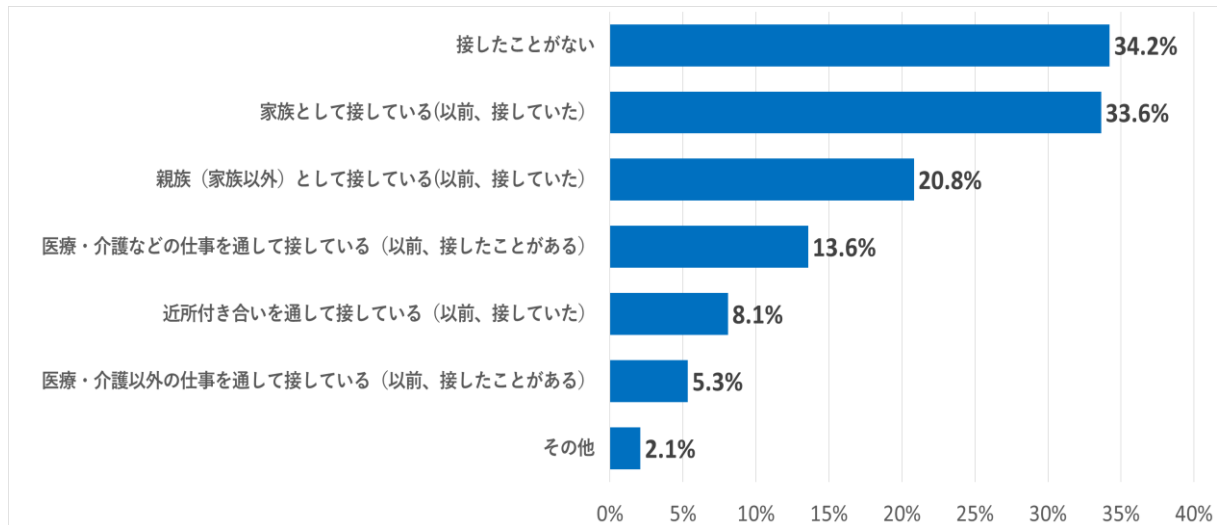
### <今後の事業展開>

- ・ 今後も引き続き、認知症へ理解を深めるため普及・啓発を進める。とりわけ、認知症の人への接し方、利用できる支援制度や相談窓口などの情報発信を強化していく。
- ・ 認知症の人と家族を地域全体で支える体制を整備するため、生活支援や社会参加支援の促進を図り、住み慣れた地域で暮らし続けられる環境の整備を推進する。

【問1】（認知症の人との接点）

あなたは、認知症の人に接していますか。（または、接したことがありますか。）次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,201)



○ 認知症の人に「接したことがない」が 34.2%で最も多く、次いで「家族として接している（以前、接していた）」が 33.6%、「親族（家族以外）として接している（以前、接していた）」が 20.8%、「医療・介護などの仕事を通して接している（以前、接したことがある）」が 13.6%、「近所付き合いを通して接している（以前、接していた）」が 8.1%、「医療・介護以外の仕事を通して接している（以前、接したことがある）」が 5.3%の順であった。

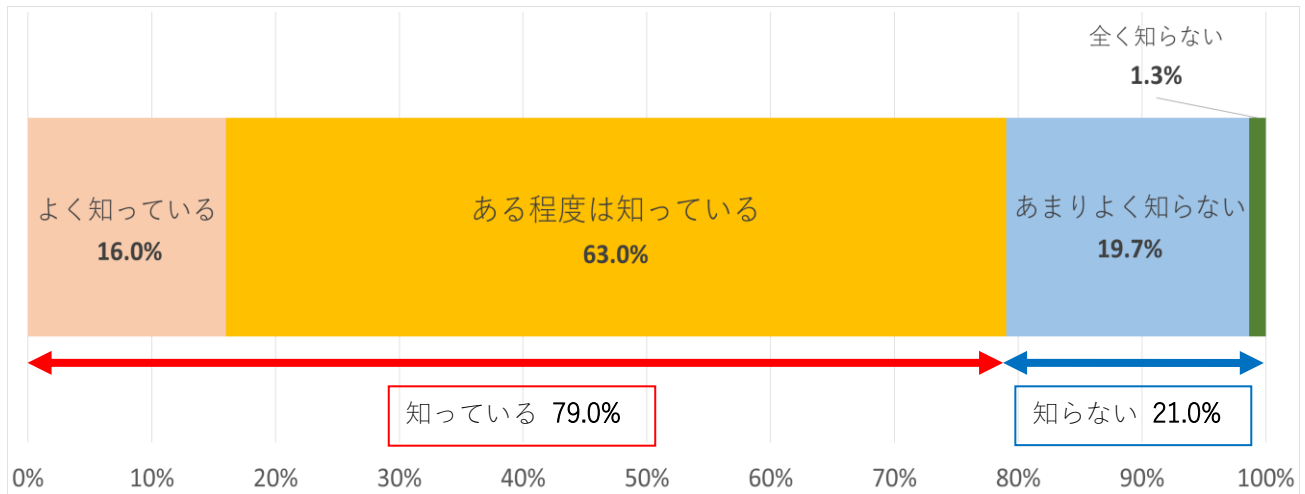
○ 「その他」（2.1%）として、次のような意見が挙げられた。（計 25 件）

- ・ 高速道路の交通管理の仕事で、高速道路上で歩行者を保護した際、認知症の方だった
- ・ お客様として接したことがある
- ・ ボランティアで接した
- ・ 学校の実習で接したことがある

【問2】（認知症に関する認知度）

あなたは、認知症のことを知っていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,201)



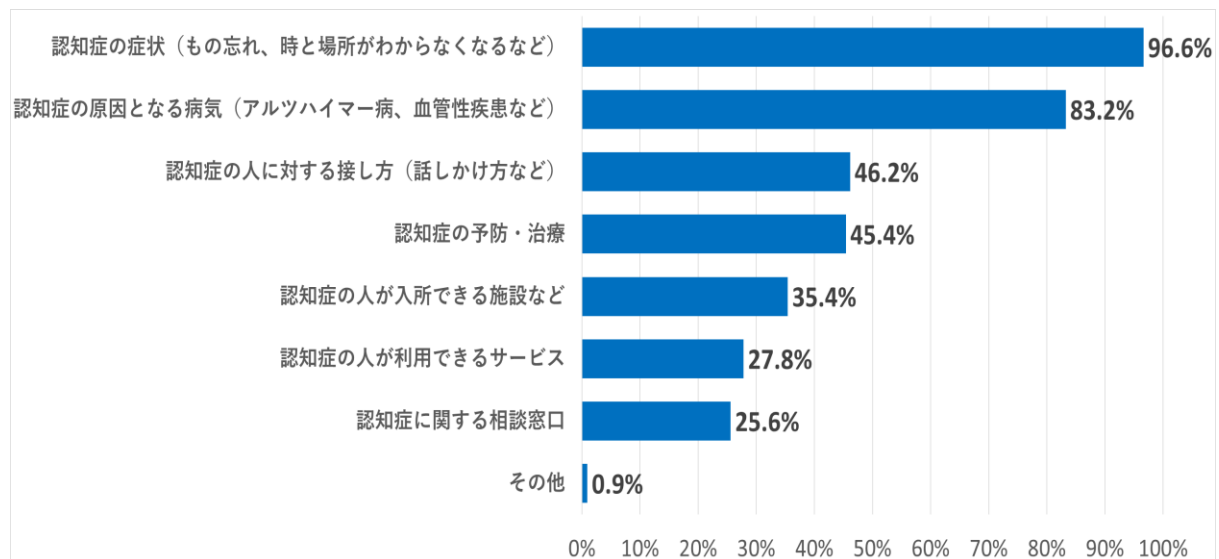
- 認知症について、「よく知っている」（16.0%）、「ある程度は知っている」（63.0%）を合わせた【知っている】と回答した割合は 79.0%で、「あまりよく知らない」（19.7%）、「全く知らない」（1.3%）を合わせた【知らない】と回答した割合は 21.0%であった。

【問3】（認知症に関する認知度）

（問2で「1 よく知っている」「2 ある程度は知っている」を選択した方へ）

あなたが、認知症について知っているのはどのようなことですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=949)



○ 認知症について知っていることは、「認知症の症状」が96.6%で最も多く、次いで「認知症の原因となる病気」が83.2%、「認知症の人に対する接し方」が46.2%、「認知症の予防・治療」が45.4%、「認知症の人が入所できる施設など」が35.4%、「認知症の人が利用できるサービス」が27.8%、「認知症に関する相談窓口」が25.6%の順であった。

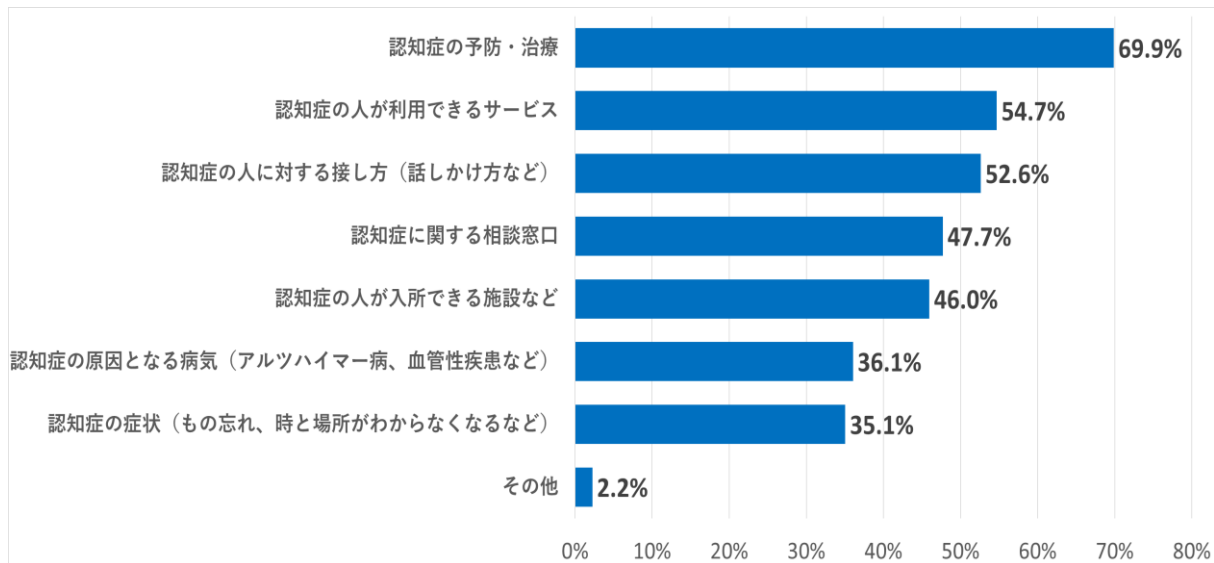
○ 「その他」（0.9%）として、次のような意見が挙げられた。（計9件）

- ・ 認知症サポーターの制度
- ・ 地域の認知症予防の取組
- ・ 認知症の人の行動

【問4】（認知症に対する関心）

あなたが、認知症について知りたいのはどのようなことですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,201)



○ 認知症について知りたいことは、「認知症の予防・治療」が69.9%で最も多く、次いで「認知症の人が利用できるサービス」が54.7%、「認知症の人に対する接し方」が52.6%、「認知症に関する相談窓口」が47.7%、「認知症の人が入所できる施設など」が46.0%、「認知症の原因となる病気」（36.1%）、「認知症の症状」（35.1%）の順であった。

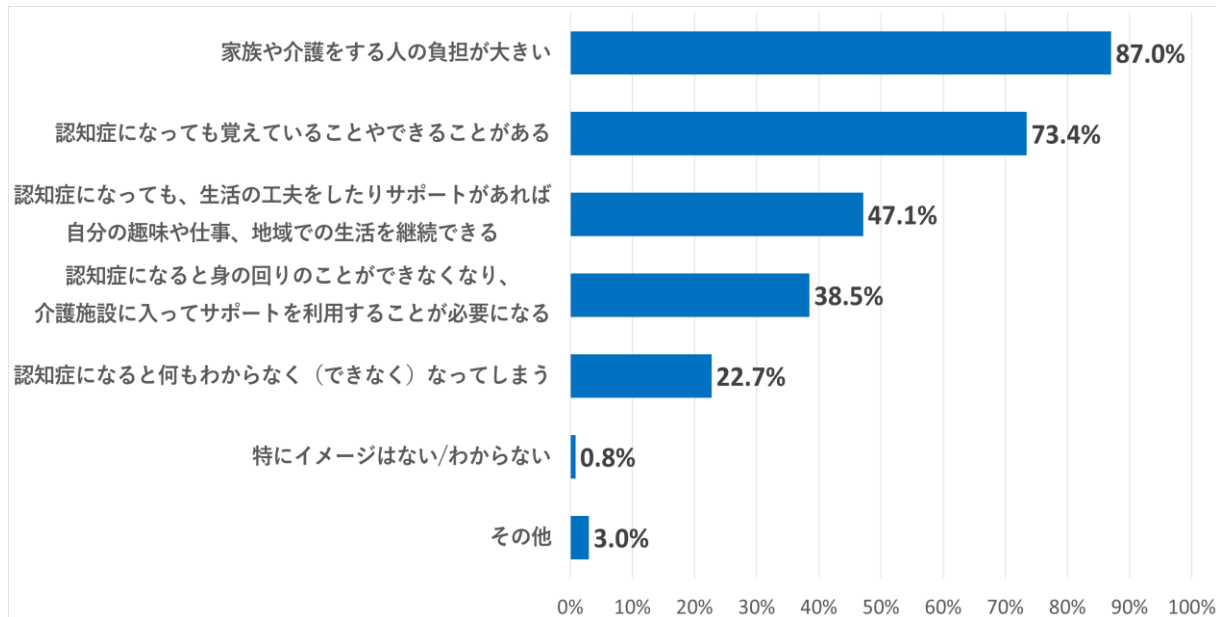
○ 「その他」（2.2%）として、次のような意見が挙げられた。（計27件）

- ・ 認知症になった時の尊厳
- ・ 認知症対応医療機関
- ・ 認知症の人を支える側の情報
- ・ 認知症の人を介護する家族を支えてくれる機関
- ・ 相続関係、成年後見制度
- ・ 今後の治療、予防医療等の研究や将来の医療の見通し
- ・ 定期的に勉強できる仕組み

【問5】（認知症のイメージ）

あなたは、認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,201)



○ 認知症に対するイメージは、「家族や介護をする人の負担が大きい」が87.0%で最も多く、次いで「認知症になっても覚えていることやできることがある」が73.4%、「認知症になっても、生活の工夫をしたり、サポートがあれば自分の趣味や仕事、地域での生活を継続できる」が47.1%、「認知症になると身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が38.5%、「認知症になると何もわからなく（できなく）になってしまう」が22.7%、「特にイメージはない/わからない」が0.8%の順であった。

○ 「その他」（3.0%）として、次のような意見が挙げられた。（計 36 件）

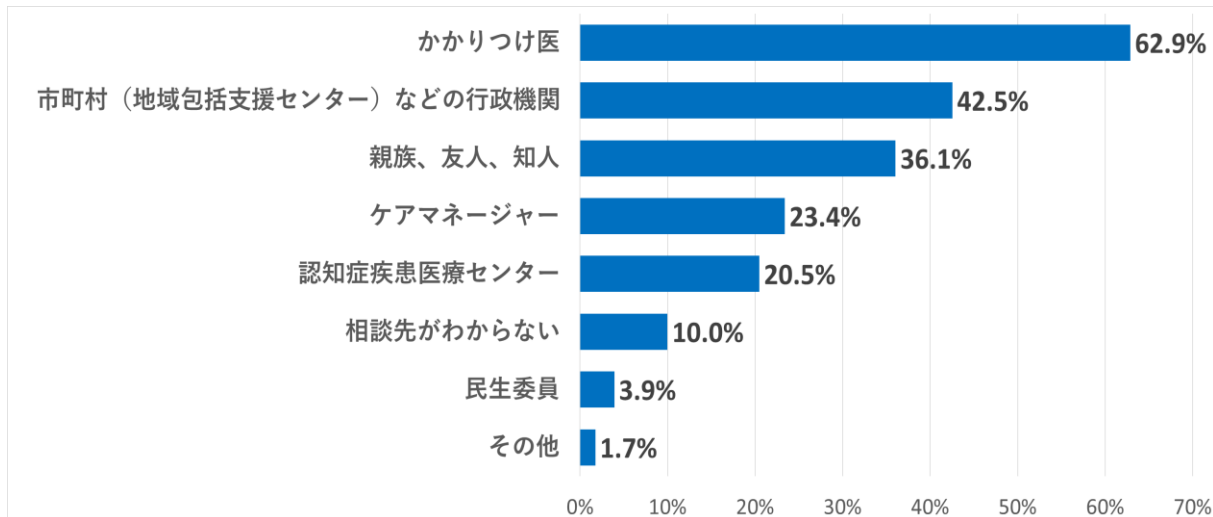
- ・軽度なのか、重度なのかなど、症状やレベルによって異なる
- ・家族（介護者）負担、経済的負担が増える
- ・徘徊や暴力をふるう
- ・尊厳が失われる
- ・認知症ではないかと思う方とは正直関わりたくないが、静かで困っている場合は、手助けをしてあげたい
- ・誰でも認知症になりうる
- ・本人が認めないことで一層進行する

【問 6】（認知症が疑われたときの相談先）

あなたは、認知症が疑われたとき、どこ（誰）に相談しますか（しましたか）。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

※ 1 「認知症疾患医療センター」とは、認知症の鑑別診断とその初期対応や、身体合併症と行動・心理症状（BPSD）への対応、専門医療相談などを行うほか、地域での認知症医療連携体制を構築する拠点となる医療機関です。

(n=1,201)



○ 認知症が疑われたときの相談先は、「かかりつけ医」が 62.9%で最も多く、次いで「市町村（地域包括支援センター）などの行政機関」が 42.5%、「親族、友人、知人」が 36.1%、「ケアマネージャー」が 23.4%、「認知症疾患医療センター」が 20.5%、「相談先がわからない」が 10.0%、「民生委員」が 3.9%の順であった。

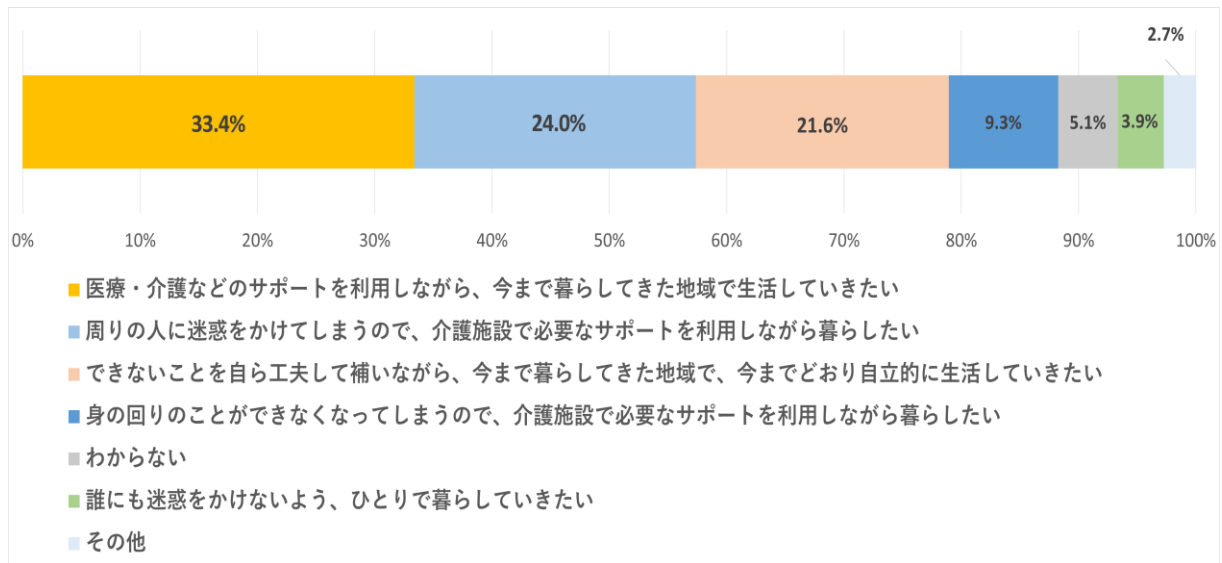
○ 「その他」（1.7%）として、次のような意見が挙げられた。（計 21 件）

- ・ 認知症の診断をしてくれる病院
- ・ 知り合いの医療介護関係者
- ・ 孤立無援状態の為、特に相談相手はいない
- ・ 認知症と疑われても本人はわからないので、家族と普段からの話し合いが必要
- ・ その時になってみないとわからない
- ・ 最初の担当者や先生によって、その後の人生が変わってしまう。知識の無い医者も多い
- ・ 病院に連れて行きたいが、本人が理解しないのに連れて行くことは難しい
- ・ 地域のサポーター
- ・ 社会福祉協議会

【問 7】（認知症になったときに望む生活の場）

あなたは、自分が認知症になったとしたら、どのように暮らしたいですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,201)



○ 自分が認知症になったときに望む暮らしは、「医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が33.4%で最も多く、次いで「周りの人に迷惑をかけてしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」が24.0%、「できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活していきたい」が21.6%、「身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」が9.3%、「わからない」が5.1%、「誰にも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしていきたい」が3.9%の順であった。

○ 「その他」(2.7%)として、次のような意見が挙げられた。(計 33 件)

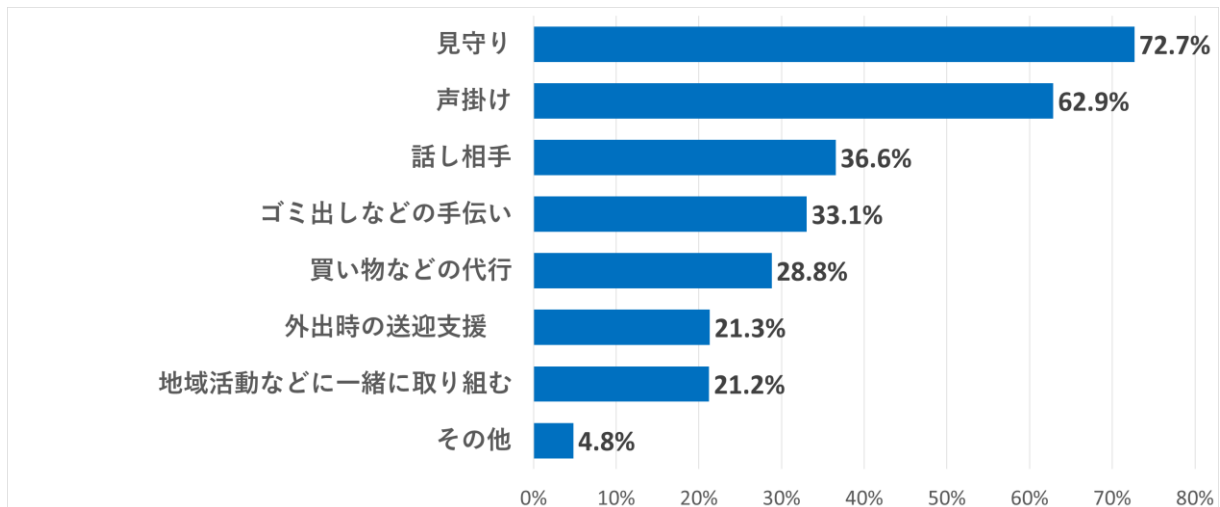
- ・ 認知症で自分がわからないような状態になったら生きていたくない。安楽死の選択肢があればと思う
- ・ 程度に応じた支援を受けながら、最後は介護施設のお世話になりたい
- ・ 状態によって変わるし、その時にならないとわからない
- ・ 認知症の経過を見守ってくれるような自分をサポートしてくれる人の判断で、最適と思われる場所で生活していきたい
- ・ 出来る限り自立したい。社会貢献できるような場やコミュニティがあれば参加したい。症状の悪化を自分で判断するのが難しいと思うので、サポートが欲しい



【問 8】（地域で暮らす認知症の人に対する支援）

あなたが、地域で暮らす認知症の人にできる（できそうな）支援はどのようなことですか。  
次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,201)



○ 地域で暮らす認知症の人にできる（できそうな）支援は、「見守り」が 72.7%で最も多く、次いで「声掛け」が 62.9%、「話し相手」が 36.6%、「ゴミ出しなどの手伝い」が 33.1%、「買い物などの代行」が 28.8%、「外出時の送迎支援」が 21.3%、「地域活動などに一緒に取り組む」が 21.2%の順であった。

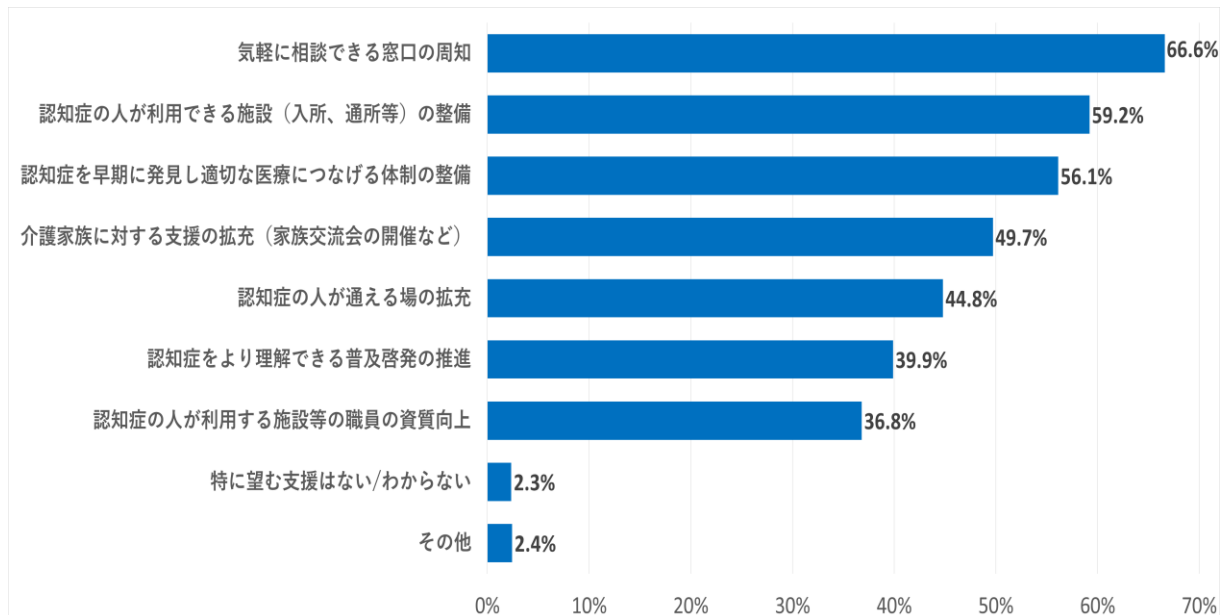
○ 「その他」（4.8%）として、次のような意見が挙げられた。（計 58 件）

- ・「関わらない（関わりたくない）」「わからない」「支援は難しい」「家族以外は難しい」等  
支援に否定的 32 件
- ・「納税」「困ったことをサポートできる範囲で行いたい」「なぜ、困っているのか。確認してから、助ける。」等  
支援の提案 21 件
- ・「公的な立場支援が必要」「専門家の支援が必要」「施設に入れるように公的機関でサポートして欲しい」等  
専門家・公的機関の支援を頼る 5 件

【問 9】（認知症の人及びその家族に対する支援）

あなたは、認知症の人やその家族に対する支援について、どのようなことを望みますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,201)



○ 認知症の人やその家族に対する支援については、「気軽に相談できる窓口の周知」が 66.6%で最も多く、次いで「認知症の人が利用できる施設（入所、通所等）の整備」が 59.2%、「認知症を早期に発見し適切な医療につなげる体制の整備」が 56.1%、「介護家族に対する支援の拡充」が 49.7%、「認知症の人が通える場の拡充」が 44.8%、「認知症をより理解できる普及啓発の推進」が 39.9%、「認知症の人が利用する施設等の職員の資質向上」が 36.8%、「特に望む支援はない/わからない」が 2.3%の順であった。

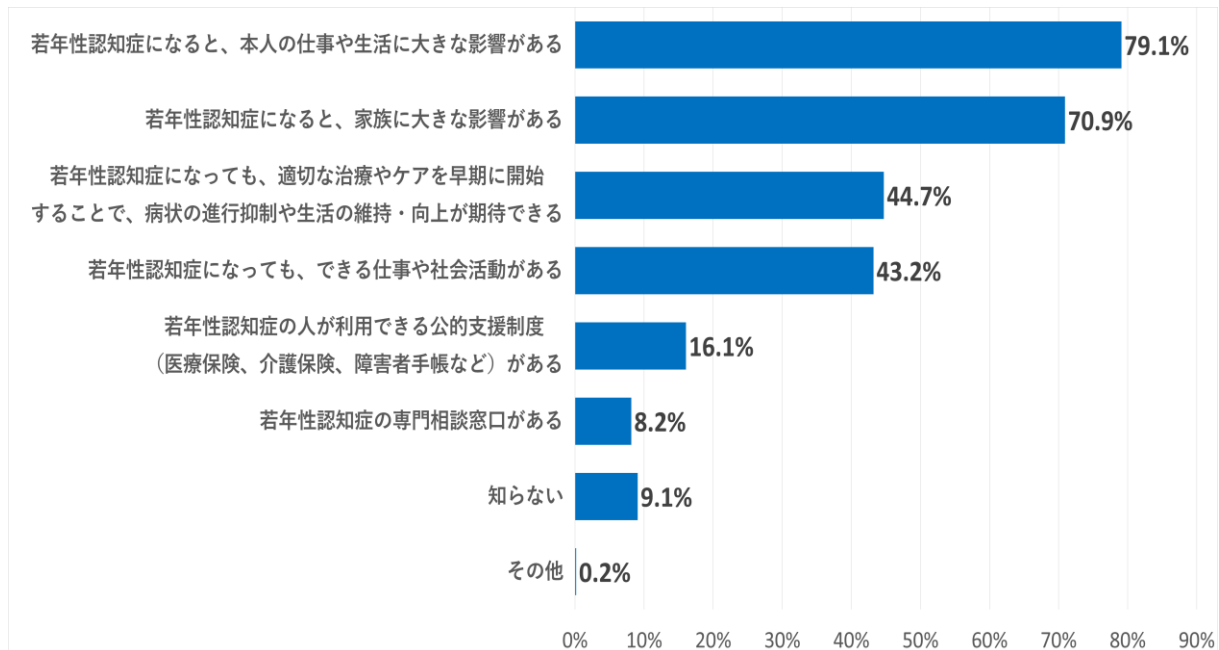
○ 「その他」（2.4%）として、次のような意見が挙げられた。（計 29 件）

- ・ MCI（軽度認知障害）ですが、要支援にもならないので、認知症デイケアを利用したいが、ハードルが高い
- ・ 認知症の人への対応を正しく学ぶ機会
- ・ デジタルではなく、アナログでも情報を発信して欲しい
- ・ 昔テレビでヨーロッパにある認知症の人たちが暮らす街を見て、サポートも手厚く、安全で穏やかに過ごしている様子が良さそうに思えた
- ・ 家族が認知症になり、それを隠したがる。徘徊してしまうケースが多々ある。早期対応で生活が改善されるケースもある。無料または低額のシニアの活動場所を整備することで、早期発見、早期対応、活動による機能向上ができて、介護費用削減にも繋がる
- ・ 介護者の負担軽減 5 件
- ・ 施設職員への支援 3 件
- ・ 経済的支援 4 件
- ・ 移動支援 2 件

【問 10】（若年性認知症の理解）

あなたは、「若年性認知症 65 歳未満で発症する認知症）」について、どのようなことを知っていますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,201)



○ 若年性認知症については、「若年性認知症になると、本人の仕事や生活に大きな影響がある」が 79.1%で最も多く、次いで「若年性認知症になると、家族に大きな影響がある」が 70.9%、「若年性認知症になっても、適切な治療やケアを早期に開始することで、病状の進行抑制や生活の維持・向上が期待できる」が 44.7%、「若年性認知症になっても、できる仕事や社会活動がある」が 43.2%、「若年性認知症の人が利用できる公的支援制度（医療保険、介護保険、障害者手帳など）がある」が 16.1%、「若年性認知症の専門相談窓口がある」が 8.2%、「知らない」が 9.1%であった。

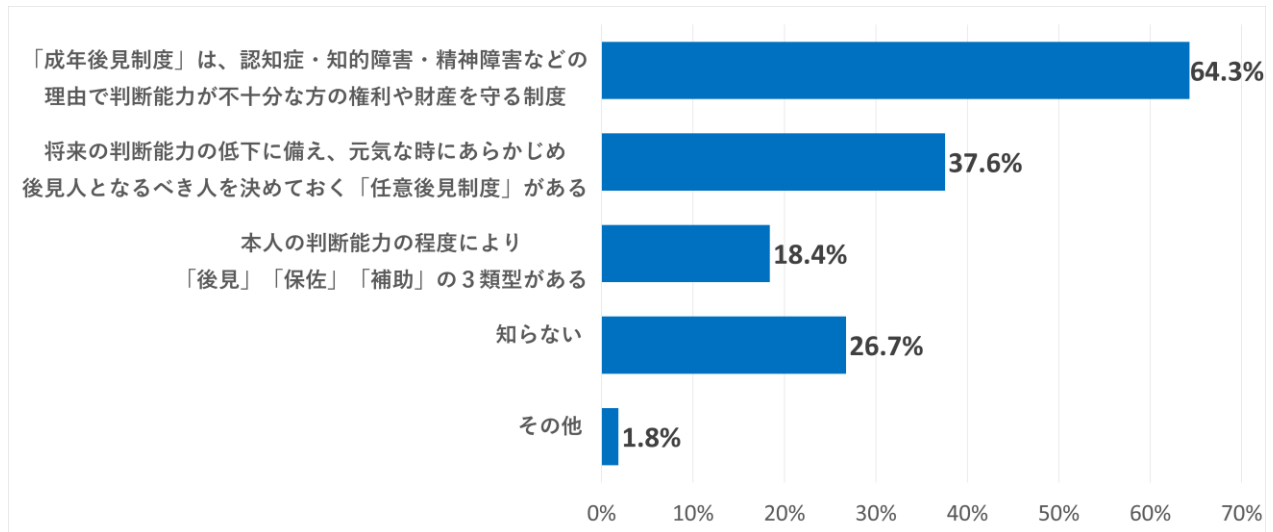
○ 「その他」（0.2%）として、次のような意見が挙げられた。（計 2 件）

- ・やはり尊厳が問題。社会に迷惑をかけるなら死んだほうがましかもしれない
- ・初期段階なら、本人の努力で進行を抑え相当程度まで回復できると確信している

【問 11】（成年後見制度の理解）

あなたは、「成年後見制度」について、どのようなことを知っていますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,201)



○ 成年後見制度については、「「成年後見制度」は、認知症・知的障害・精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度」が 64.3%で最も多く、次いで「将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく「任意後見制度」がある」が 37.6%、「本人の判断能力の程度により「後見」「保佐」「補助」の3類型がある」が 18.4%、「知らない」が 26.7%であった。

○ 「その他」(1.8%)として、次のような意見が挙げられた。(計 22 件)

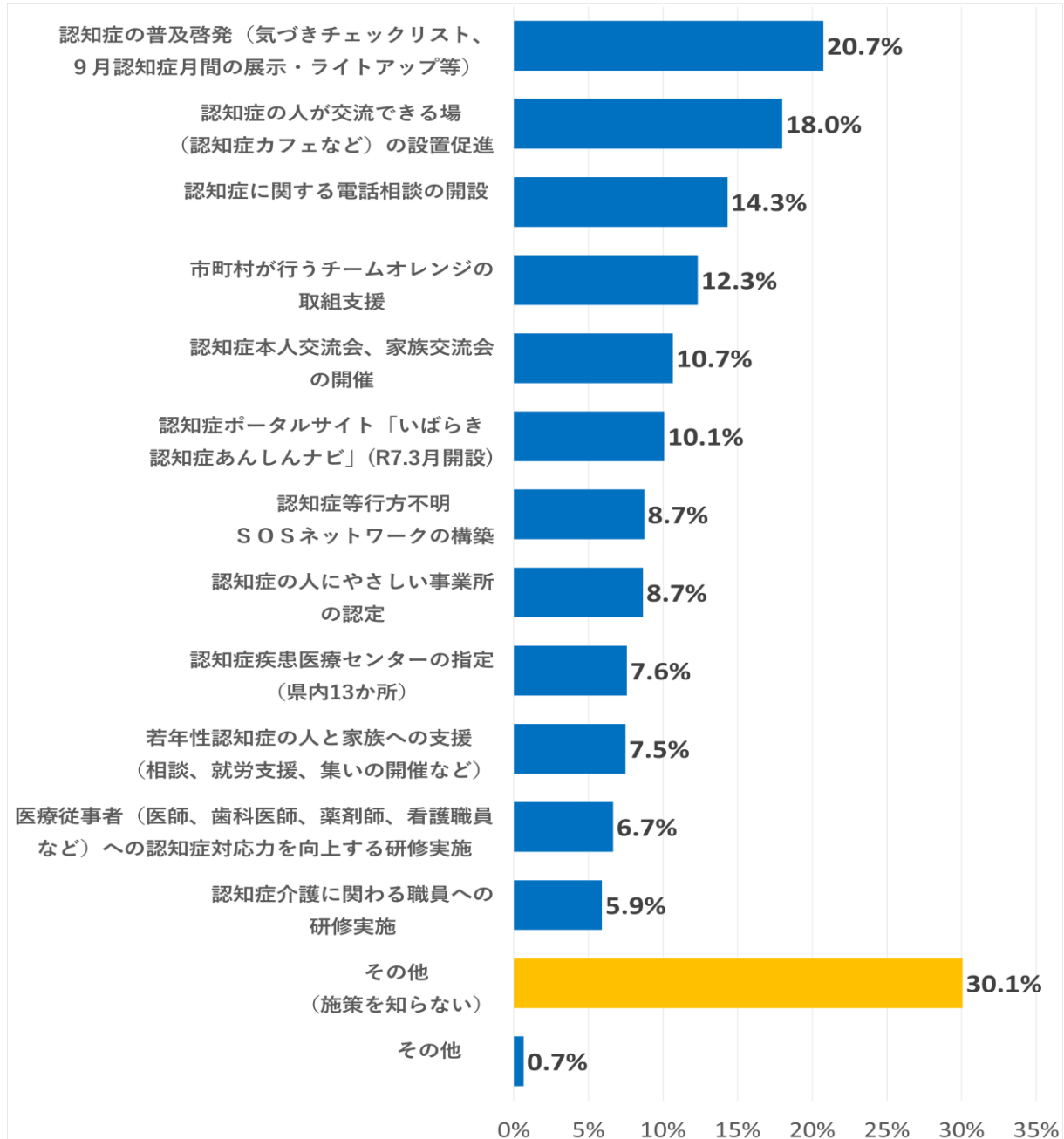
- ・ 後見人への報酬、後見人の変更や解除がしにくいなど、利用しにくい制度だと感じた
- ・ 成年後見制度を利用しようとしたが内容が煩雑で諦めた
- ・ 任意後見制度だけでなく、法定後見制度もある
- ・ 制度の利用までに高いハードルがある
- ・ 利用する人が少ない

【問 12】（実施施策の認知度）

あなたは、茨城県が取り組んでいる認知症施策を知っていますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

※ 2 「チームオレンジ」とは、認知症の人と認知症サポーターをつなぎ、認知症になっても安心して暮らしつつけられる地域づくりの活動です。

(n=1,201)



○ 茨城県が取り組んでいる認知症施策については、「その他」に記載された「施策を知らない」が 30.1%で最も多かった。

○ 知っている施策では、「認知症の普及啓発」が 20.7%で最も多く、次いで「認知症の人が交流できる場（認知症カフェなど）の設置促進」が 18.0%、「認知症に関する電話相談の開設」(14.3%)、「市町村が行うチームオレンジの取組支援」(12.3%)、「認知症本人交流会、家族交流会の開催」(10.7%)、「認知症ポータルサイトいばらき認知症あんしんナビ」(10.1%)の順であった。

## 4 調査の概要

### 1) 調査形態

調 査 時 期：2025 年 9 月 5 日 ～ 2025 年 9 月 18 日

調 査 方 法：インターネットアンケート専用フォームへの入力) による回答

モ ニ タ ー 数：1,693 名

回 収 率：70.9% (回収数 1,201 名)

回答者の属性：以下の通り

		人数人)	割合%)
全体 n)		1,201	100.0%
地域別	県北	101	8.4%
	県央	382	31.8%
	鹿行	61	5.1%
	県南	377	31.4%
	県西	92	7.7%
	県外	188	15.7%
性別	男性	511	42.5%
	女性	690	57.5%
年齢別	16～19 歳	10	0.8%
	20～29 歳	51	4.2%
	30～39 歳	158	13.2%
	40～49 歳	307	25.6%
	50～59 歳	322	26.8%
	60～69 歳	227	18.9%
	70 歳以上	126	10.5%
職業別	自営業	95	7.9%
	会社員	450	37.5%
	団体職員	58	4.8%
	公務員	56	4.7%
	主婦・主夫	245	20.4%
	学生	24	2.0%
	無職	144	12.0%
	その他	129	10.7%

### 2) 担当課

茨城県保健医療部健康推進課地域包括ケア推進室認知症対策グループ)

電話：029-301-3333

E-mail：care2@pref.ibaraki.lg.jp

(注) 割合を百分率で表示する場合は、小数点第 2 位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。